

第4次長期計画後半期3年目となる平成19年度は、第4次長期計画前半期における研究関連事業の実績と経過を踏まえつつ、引き続き研究高度化推進事業や学内研究助成制度をはじめとした事業を継続して実施していく。

また、ポスト第4次長期計画に向けて、これまで策定してきた研究計画を引き続き推進していくとともに、政府の第三次科学技術基本計画や研究を取り巻く諸情勢を視野に入れながら、さらなる研究実績の向上や研究環境の改善、また、研究支援体制の強化を図る。21世紀に龍谷大学が世界に通用する先進的で卓越した研究教育機関として広く認知されるべく、本学における「研究支援に関する取り組み」、「研究高度化推進事業の展開」、「COEに関する取り組み」、「学外資金による研究の推進」、「付置研究所の取り組み」、「知的財産に関する取り組み」について積極的な事業展開を図っていく。

1) 研究支援に関する取り組み

平成20年度からの実施に向けて、平成18年度から検討している個人研究費、出版助成制度について、限られた財源の中で今日の研究環境を見据えた制度改善を行う。また、必要に応じ学内助成制度の見直しを行うとともに、本学の研究活動を広く社会発信するため広報体制の構築を行い、研究環境の向上を語りつつ研究支援を実施していく。

2) 研究高度化推進事業の展開

6件の文部科学省学術研究高度化推進事業、「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチセンター(平成15年度採択)」「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター(平成16年度採択)」「アフラシア平和開発研究センターAFC(平成17年度採択)」「古典籍デジタルアーカイブ研究センターAFC(平成18年度継続採択)」「情報通信システム研究センターHRC(平成18年度採択)」「革新的材料・プロセス研究センターHRC(平成18年度採択)」を引き続き推進するとともに、平成18年度で終了する「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター(継続申請中:代表 鍋島直樹法学部教授)」「矯正・保護研究センターAFC(継続申請中:代表 村井敏邦法務研究科教授)」についても3ヶ年計画の継続申請を行う。この2件が採択されれば、合計8件のプロジェクトを実施することとなり、より一層の研究の高度化が図られることとなる。

なお、平成19年度は「アフラシア平和開発研究センター」を対象に大学独自の外部評価を実施し、同研究プロジェクトの後半期における研究活動に、評価結果を有効的活用する。

また、大学が独自に実施する高度化推進事業として「アフガニスタン新発見仏教遺跡学術調査」を継続し、平成19年度は第3次学術調査隊の派遣に加え、アフガニスタンから若手研究者を本学に受入れ、研究者育成に組み込み、今後のアフガニスタンの文化復興支援への寄与と仏教研究の推進に努めていく。

3) COEに関する取り組み

平成19年度から平成23年度までの5ヵ年事業として、「アジア知の創成と世界標準策定の拠点形成」

(拠点リーダー 濱下武志国際文化学部教授)を文部科学省グローバルCOEプログラムに申請した。グローバルCOEプログラムの提唱する世界的な教育研究拠点の形成という理念は本学の目指す大学像と同じくするものであり、その積極的な推進に努める。

4) 学外資金による研究の推進

出来る限り学費に依存することなく研究の財源を確保していくために、これまで以上に科学研究費補助金等の公的補助金及び企業等からの受託研究費等の外部資金の獲得に積極的に取り組んでいく。

科学研究費補助金は毎年度国の予算額が増額していることに鑑み、申請件数、採択件数ともに増加させることに努め、平成18年度に引き続き補助金額1億円以上の獲得を目指す。

私立大学学術研究高度化推進事業に関しては、第4次長期計画後半期の計画に基づく申請を行い、高額研究費の獲得に努める。

受託研究費及び奨学寄付金についてはRECとの一層の連携を強めつつ本学の知的資産や研究シーズの有効活用に努め、平成18年度以上の資金獲得を目指す。

5) 各研究所の取り組み

各付置研究所においては、従来通り各研究所において採択された個人研究、共同研究、指定研究等を実施する。近年の学術研究の動向や研究を取り巻く環境変化を踏まえて、平成15年に答申された「研究政策について(答申)」の中で提起されている「研究所の活性化」について、平成17年～18年度に全学研究運営会議、専門委員会(研究所)の検討を経て「研究所の在り方」(答申)を取りまとめた。今後は答申にある、4つの付置研究所の諸課題を整理し、各々の研究所において「研究所の独自性」「研究課題の多様化」に考慮しつつ本学の研究基盤としての機能を果たしうる新しい研究所の実現に向けて取り組んでいく。

とりわけ、仏教文化研究所では、建学の精神(浄土真宗・仏教思想)に基づく学際的な学術研究と国際的な高度教育プログラムを世界的レベルで発信することを目指し、内外の研究者による学術的交流を推進する。また、学術交流を通して国際的に活動する場を提供することにより、各々の専門分野における世界的拠点の構築を目指し、平成20年度の仏教文化研究所体制の一新に向けて準備を進める。